

時間預託をどう広めるか ~NALCの実践から~

(企画・協力：(特非)ニッポン・アクティブライフ・クラブ)

提言

時間預託は、
自分の地域はもとより、
遠く離れた拠点とも
支援の交換ができます。
時間預託で生きがいと安心を。

登壇者

【進行役】	西村 順子氏	(特非)ニッポン・アクティブライフ・クラブ事務局長
	和田 修身氏	(特非)ニッポン・アクティブライフ・クラブ水戸拠点代表
	近藤 秀子氏	(特非)ニッポン・アクティブライフ・クラブ枚方拠点副代表・家事介助支援統括
	浅野 公博氏	(特非)ニッポン・アクティブライフ・クラブ徳島拠点代表

議事要旨 西村 順子氏

標題のテーマで地域での助け合いをどう広めるかを模索した。

当団体が助け合いのツールとして使っている「時間預託」の誕生、推移、その背景、新地域支援事業との関わりについて説明。その後3拠点の登壇者がそれぞれの地域で行っている助け合いの実例を発表。

1. 和田修身 (ナルク水戸拠点)

「車椅子高校生の支援活動」

車イス通学の高校生が校内で移動する時のサポートを3年間続けて無事卒業させた。校内にエレベーターはなく、階段昇降機を使って移動。そのために月～金曜まで4人が2人ずつペアを組み、各半日交代で毎日サポート。その後無事に大学も卒業し、現在は社会人として埼玉に住み、東京都内まで自家用車通勤をしている。

2. 近藤秀子 (ナルク枚方拠点)

「枚方拠点の時間預託活動」

在宅支援は、小さなできないことを小さな力を集めて支援すること。残存能力の維持に心がけ、過ぎた親切にならないよう注意。

その小さな助け合いの依頼を増やすために「頼みやすい」環境づくりに腐心している。そのためには会員外の地域の団体との協力を惜しまない。

地域包括ケアシステム構築の一助になるべく努力中。

3. 浅野公博 (ナルク徳島拠点)

「移送と点数利用の実態」

公共交通機関の弱い地域なので、ナルクの移送活動は重宝されている。助け合いの80%以上が移送で、それ以外は生活支援が主。その中でユニークな活動例を紹介。資格のある会員による散髪・毛染め、マッサージ、洋服のリフォームなど。また、妻が時間預託活動をして1000点残して他界。その後、夫がこれを使って人工透析に通っている例。

「冥途の土産に京都・北野天満宮に行きたい」と言う高齢女性のために徳島⇄京都間を1日かけて往復。結果的に「今年が最後」と言いつつ5年続いた例。

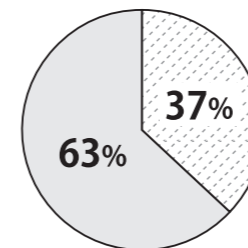
それぞれの拠点では他拠点との間で遠距離支援が行われ、全国的に使うことのできる時間預託の魅力も加えて発表。

助け合いは支えられる方も支える方も、そして客観的にそれを見聞きする者にも感動と感銘を与える。時間預託は感動の扉を開けるキーである。

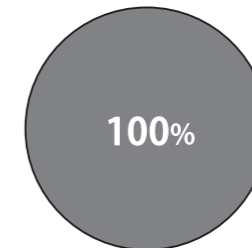
総合事業における日常生活支援も心は同じ。それぞれのニーズに合わせて助け合い活動に邁進したい。

アンケートの結果 参加者概数：66名 回答者数：51名

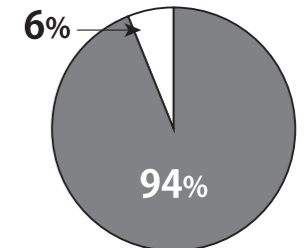
回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



その他の方



■ 寄せられた声から

- ナルク初めて知りました。良かったです。
- 各拠点の実践事例がよかった。